

6 - (3) 水産情報発信事業

太田武行・藤原大吾・藤岡秀文
前田啓助・徳安理敬

目的

鳥取県沖合域の水温状況や漁獲される魚の資源状況及び試験研究成果を水産関係者などに迅速でわかりやすく大型ポスターなどにより情報提供を行う。

方法

(1) 大型ポスター

海洋観測結果、試験研究成果、各種お知らせについて、漁業協同組合及び県関係施設に大型ポスターである「魚取新報」を掲示した。

(2) ファクシミリ及びホームページ

水揚げ情報、水温分布図、試験操業情報、漁況情報などをファクシミリ及びホームページなどで情報提供した。また、沿岸潮流観測ブイで観測した潮流情報を電子メール、ホームページ、電話応答サービスにより提供した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの他県の漁模様及びスルメイカの境港における水揚げ状況を電話で案内した。

(4) 連絡会議、報告会等

海況及び浮魚類、底魚類、イカ類の漁況並びに今後の動向について境港漁海況連絡会議を12月及び3月に開催した。

(5) レポート

1年間の海洋環境、水産資源、試験研究結果をわかりやすくした「海洋環境・水産資源レポート」の作成を行なった。

(6) 水産試験場一日開放日、各種イベント

県民に広く水産試験場の業務や海の不思議さ、魚の面白さについて知っていただくため例年9月に実施している水産試験場の一日開放日である「海と魚の学習日」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。また、境港まぐろ感謝祭、境港水産祭りも同様の理由により中止とされた。

結果

(1) 大型ポスター

県内各漁協（支所）21箇所、山陰海岸ジオパーク海と大地の自然科学館1箇所、鳥取県庁2箇所、とっとり賀露かっこ館1箇所、夢みなとタワー1箇所、水産試験場1箇所、栽培漁業

センター、境港水産物地方卸売市場1箇所、海況情報などを月1回掲示した。

(2) ファクシミリ及びホームページ

境港におけるまき網及びスルメイカの水揚げ情報、栽培漁業センター取水口における水温、御崎沖沿岸潮流観測ブイによる表面水温観測については、旬ごとに県内漁協、各県水試、新聞社、水産研究所など91箇所にファクシミリで配布した。海洋観測結果、試験船調査速報、境港の漁獲量や市場調査状況、水温など適時水産関係者などにファクシミリにより配信した。

(3) 電話応答サービス

ケンサキイカの長崎県・兵庫県の漁模様及びスルメイカの境港の水揚げ状況について週2回電話応答案内サービス（電話 0859-45-4505）の更新を行った。また、県内2箇所（酒津・御崎沖）に設置した沿岸潮流観測ブイで観測した潮流情報を案内した。

(4) 連絡会議、報告会等

2022年12月13日（第一回）及び令和4年3月16日（第二回）にまき網、イカ釣、沖合底びき網、ベニズワイかにかご漁業を対象とした境港地区漁海況連絡会議を開催した。

第一回会議では、講師に水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センターの佐久間啓研究員を講師とし、「日本海西部のズワイガニ資源の今後の見通しについて」の表題で講演をしていただいた。

第二回会議では、一般社団法人 漁業情報サービスセンターの意見交換会と合同で会議開催するとともに、講師に水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センターの黒田啓行浮魚第4グループ長を講師とし、「マサバの資源について～資源評価と生態研究」の表題で講演をしていただいた。なお、例年4月に行っている岩美地区のイカ釣り漁業者を対象とした説明会及び7月に開催するマアジ新規加入量及びクロマグロの資源状況についての報告会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止し、資料配布にて代替した。

(5) レポート

令和3年度の海洋環境と水産資源の状況や水産試験場の一年間の試験研究結果をわかりやす

く説明した「海洋環境・水産資源レポート」を令和4年5月に作成し、ホームページに掲載するとともに水産関係機関などに配布した。